

この PDF の 2～4 ページの横に、5～7 ページが付く形になります（元のエクセル）。

●厚労省の表そのものには、もちろんなっていません。研修計画や、保護者と子どもに伝える部分は特に「おまけ」から拾い上げていただけるのではないかと。

●ただし、未就学児は「ルールを学ぶことはできる」けれども、「ルールを守ろうとしているからといって、それで命を守れないこともある」という点をお忘れなく。一方、保護者は「ルールを知っていても守らないことがあるから、園としては伝えておくべきルールを伝えていくのが、責任の果たし方」という視点をお忘れなく。

●園の文章を作る時には、語尾までしっかり検討しましょう。私はたとえば、「共有」という言葉は「保護者に共有する＝見せる」以外、使っていません。「確認」は本当に「みんなで見て確認」という意味のところ以外、使っていません。「連携」はまったく使っていません。保育言葉の「共有」「確認」「連携」等はたいてい意味のない、「わかったつもり言葉」ですから。

「連携」の私の定義は、「保育の安全」サイトの「安全」2－4の最後に書いてあります。

月	対象	内容
2	全体	今年度の年間カリキュラム（実施分）をすべて書き出す（何をどのようにしたか。子どもの成長発達に寄与したか。発生した問題）
3	全体	次年度の年間カリキュラムの見直し（今年度に問題が発生した内容。子どもの成長発達に合っていない部分。暑い時期の活動。社会的に危険あるいは不適切とみなされてきている活動等）
3	全体	今年度の初めに作った「散歩安全マップ」に、今年度起きた事故、事故未遂、落ちていた危険物、危険人物、危険な位置等をそれぞれに書き込む。
3	事務と担当	送迎車両（今年度の事故、事故未遂、気づきを洗い出し。マップ上にルート上の危険箇所洗い出し。次年度のルート変更。契約内容を運転手または委託会社と確認し、運転手の業務を明確化）
4	事務	保護者連絡メール動作確認（こちらに既読がつくか。保護者から返信できるか）。実際に送受信してみる
4	事務、保護者	園のシステムの上で、「休む子ども」の情報が登録／記録されるよう保護者とシミュレーション練習
4	事務、保護者、全体	誘拐、暴力の予防のため、「お迎えリスト」を詳細に作れるよう保護者に呼びかける。「お迎えリスト」に変更があった時はすぐに連絡するよう呼びかける（下の「誘拐、暴力の予防」参照）
4	未満児等	睡眠環境の確認（4月の初め。0歳児クラスはもちろん、在園児に対して多数の新入園児が入る1歳児クラスも）。寝かせる位置。ベッドの中に何も置かない。ベッドまわりにハザードがないか。睡眠モニターを使うのであれば、モニター機器（特にコード類）がハザードになっていないか等
4	未満児等	園長と主任／副園長が先頭に立って、あおむけ寝、睡眠チェックの徹底（4月の初め。0歳児、1歳児、2歳以上であっても入園ストレスを感じている新入園児のいるクラス）。当初は園長や主任が、実施確認のために部屋へ行く
4	未満児	救急のシミュレーション練習。可能であれば、新年度の担当職員で3月中に。エピペンの使用方法も
4	事務と担当	送迎車両（実際に走行して危険箇所確認。乗降時の危険箇所、車両の前後や周囲の交通の流れの確認）
4	全体	今年度の散歩安全マップの作成。保護者に共有（4月後半以降）

4	事務、保護者	駐車場、門扉、玄関ドアの扱い（保護者に実際、やってもらう。保護者会の後など？）
4	全体	どうしても与薬をしなければならない場合の方法
4	調理室、事務	昨年度中の納品ミス、納品チェックミスの洗い出しを見、注意が必要な業者を特に納品場所を書いておく
4	一時預かり	「いつものその子」がわからない子どもを預かるポイントを担当者に徹底
4月と適宜	特に未満児	食事による誤嚥窒息予防（食事介助の方法）
4月と適宜	特に未満児	玩具の中に「つるつるころん」がないか。今までしまっていたものが出てくる、保護者からもらうなども起こる
4月と適宜	全体	食物アレルギーの気づきをもとに、確認手順の確認、改善
5	以上児	可能であれば4月に行う。救急（特に以上児）。暑い時期／水遊びを始める前に。エピペンの使用方法も
5	全体	傷病時の一次対応（「どうするか」以上に「やってはいけないこと」を学ぶ。例：熱傷時、倒れている時等） ★別添資料
5	全体	4月後半、散歩が多くなる時期から子どもの様子を見、全員を一緒に散歩へ連れていけるかどうか検討
5	事務、リーダー	同じ公園を利用している近隣園に連絡し、帽子やスモック等の色、形を伝え合う。似ている場合は、どのようにして区別するかを園の間ではっきりさせる。子どもがいなくなった場合の協力体制も話し合っておく
5	事務	今夏の気温の予測を見、カリキュラムと照らし合わせ、柔軟に対応できるように用意しておく。保護者に必要な手紙を出しておく
6	事務と担当	送迎車両。暑くなる前に、「取り残さないチェック法」を再度確認
6	全体	物置、資材庫、トイレ部屋等、「狭くて閉じられた場所＝閉じ込める場所」の確認（暑くなる前に）。鍵を閉める前に「誰もいない！ チェック」をする練習

6	全体	水遊びの注意点の徹底（子どもが遊びから離れていなくならないよう、全体を見ている係はどこに立つか。子どもに水をかける時、顔を狙わない等）
6	全体	熱中症予防のため、「この温度になったら、外へは出ない」を徹底する
6	全体	虫よけ剤を使うのであれば、使い方。
6	事務、調理	（暑くなるのが早ければ5月）、集団食中毒予防のため、調理手順等の徹底
9	全体	（運動会が春ならばその時期）子どもの成長発達に合わない活動をさせていないか。「保護者に成果を見せるため」の運動会になっていないか
契約による	事務	遊具の業者チェック
適宜	全体	災害時（台風の地域、雪の地域。および地震、原発事故時）の安全確保、避難、保護者連絡のシミュレーション
適宜	全体	不審者対応
適宜	事務	誘拐、暴力の予防
適宜	該当クラス	ケガ事例の中で、「保育の質」として明らかに誤っていたものを、保育の質として検討し、具体的な保育の改善案を出す
適宜	全体、保護者	ケガ事例の中で、環境整備に問題があり、対応したものを園内（必要に応じて保護者にも）で共有
適宜	全体、保護者	環境内に「息ができないできごと」を引き起こしそうになったハザードや気づき事例があった場合園内で（必要に応じて保護者にも）共有
適宜	全体、保護者	「気づき」の出し方を確認
適宜	各クラス	おもちゃの破損チェック（日常的に水拭きをする玩具以外）。遊具の破損チェック
適宜	全体	プール（プールを安全に実施する方法は事実上ないので、コメントしません。内閣府等が出しているガイドラインに従ってください）

おまけ

★保育者にとって大きな負担となった内容もはつきり洗い出し、見直しの対象にする。★「伝統だから」を言わない。

例：丸のままのサンマを焼いて食べる行事の価値は、骨が刺さって重篤化するリスクを上回るか？ サンマの価格は？（「保育の安全」→「コミュニケーション」B-2「尋ねて、保護者の選択を求める（魚の骨を例に）」）。

★「保育の安全」→「安全」5-2。★集まってする必要はない。★反省は一切不要。とにかく情報を書き込む。

★運転手は運転というリスクとストレスの高い作業をしており、取り残しをしない確認の責任まで負わされるべき人ではないはず。★運転手にこの確認業務をさせるなら、契約書に明記する必要がある。

★メールソフトは、既読を園側で確認できるものが望ましい（伝えた責任）。★一括送信できるよう、クラス、園全体等のグループ設定もしておく（グループ名は混同しにくいものにする）。★送信時に間違ったグループに送ったり、個人に送るべきメールをクラスに送ってしまったたりしないよう、送信前には必ず送信先を指差し声出し確認する。

★「休む連絡をするのは、保護者の責任」「登園する子どもを確実に登園させるのは、保護者の責任」と最初に伝えておく。★当日朝までメールやアプリによる連絡を義務づけるのが最良（証拠が残り、園の責任が生じない）。★たとえば9時半までに登園せず連絡もない子どもの保護者には、アプリから一斉メール送信するシステムにする。★電話でこの確認をする場合、電話を受けた職員が記入する原本から「いかに転記や伝言をせずにすますか」、方法を考える（転記や伝言はミスを増やす）。★暑い時期であれば、たとえ10時頃に人数確認をしていないことに気づいても、熱中症死がすでに起きているであろう点を保護者も園も理解する。

★1歳児クラスの新人園児は、職員がいる場所に近い側に寝かせる（在園児と混ぜて寝かせない）。★「保育の安全」→「安全」3-1。★「安全」1-2「保育の安全シート」睡眠。

★「保育の安全」→「安全」3-1の最後にある参考資料リンクにある文書、書式を活用。

★「保育の安全」→「安全」1。1-1に書いてある通り、救急の練習は劇の練習ではないので、「シナリオ通りにする」にこだわらない。★4月以降も1-2の図にある流れのポイント（例：大きな声で助けを呼ぶ、胸骨圧迫をする）を毎月、繰り返す。

★地図を作成し、書き込み、運転手や添乗担当が見る場所に貼っておく。

★今年度の散歩が本格化してから実施。昨年度のものを流用しない！ ★集まって作る必要はない。「保育の安全」→「安全」5-2。

★「保育の安全」→「コミュニケーション」B-2の中に各種ひな型。
★「コミュニケーション」B-2の中に与薬票ひな型。★A-3に「与薬の間違い等は起こりません」ひな型。
★インフレの影響で原材料の変更が突然起きたりもします。納品チェック！
★「保育の安全」→「安全」3-1の最後にある参考資料リンクにある健康情報等を収集する「簡易版」書式を活用。★「いつも」がわかっている園児たちと一緒に活動させていいのか？ 同様の睡眠チェックでいいのか？
★無理に食べさせない。★「お皿ぴかぴか」を目指さない。★「先取りしない」（「こういうものも早く食べられるように」）をする必要はないし、これをするとう誤嚥窒息のリスクを上げる。
★「つるつる」（素材）＋「ころん」（球形か球形に近い。円柱形など切り口が円。大きな塊）。★保育の安全」→「安全」4-1
★納品から配膳までの過程（子どもの前にトレイが置かれる前まで）で取り違えや混入に気づいた事例をもとに、その「気づき」がルールに従ったからか、偶然（幸運）だったかを区別する。前者の場合は園ルールが機能していると確認できる。後者の場合、その「偶然の気づき」以降にルールとして気づけるのであればそのままとしてもよい。ルールがそれ以降にないのであれば、ルールを加える必要があるかどうかを検討する。★「保育の安全」→「安全」2-6「ヒヤリハットを集める、活かす」。
★「保育の安全」→「安全」1。1-1に書いてある通り、救急の練習は劇の練習ではないので、「シナリオ通りにする」にこだわらない。★以降も1-2の図にある流れのポイント（例：大きな声で助けを呼ぶ、胸骨圧迫をする）を毎月、繰り返す。
★傷病時の対応は、「明らかに園で十分対応できるもの」以外は受診／搬送なのだから、「どうするか」よりも「やってはいけないこと」のほうが重要。
★子どもの条件が困難な場合、おとなを増やしても散歩で「いなくなる」を予防することは難しい。一度に連れていく子どもの数を減らすしかない。★「保育の安全」→「コミュニケーション」B-2、ひな型「散歩（園外保育）の安全確保対策について」。★保護者は「毎日、散歩へ連れて行って」と言うが、事故の際に責任を負うのはあくまでも園であり、活動の決定権は園にある。
★子ども10人以上を一気に数えるのは無理（点呼はそもそもしてはいけない＝不正確すぎる）。リボンや体操服の色等で7人程度に「小分け」して、「赤リボン、6人います！」「青リボンのグループ、5人います」等とパパッと数える。
★「保育の安全」→「安全」8-2
★「狭く、閉じられた場所」で子どもが亡くなる原因は、基本、熱中症。1時間もあれば亡くなるリスクがあるのだから、人数確認以前に「取り残さない」。★子どもが取り残される原因は、基本、「寝ている」。だから、「誰かいる？」ではなく、おとなが大きな声で「誰もいない！」と言いながら、隠れられる場所を指差し確認
★「狭く、閉じられた場所」で子どもが亡くなる原因は、基本、熱中症。1時間もあれば亡くなるリスクがあるのだから、人数確認以前に「取り残さない」。★子どもが取り残される原因は、基本、「寝ている」。だから、「誰かいる？」ではなく、おとなが大きな声で「誰もいない！」と言いながら、隠れられる場所を指差し確認

<p>★特に未満児の場合、子どもにつく職員は姿勢と視線が下向きになるため、そこにいる子どもは見えていても、周囲にいる子ども、その場から離れていく子どもは見えない。全体を見ている職員は必要。</p>
<p>★「保育の安全」→「安全」8-2。★倒れた子どもを見て「熱中症だ！」と判断することはできず（医師でも困難）、その段階で対応して命を守ることはできないかもしれない点を強調。</p>
<p>★「保育の安全」→「コミュニケーション」B-2の中にひな型。</p>
<p>★ヒスタミン食中毒や、ウェルシュ菌食中毒は暑い時期だけではない。「保育の安全」→「役立つリンク」→「感染症、虫などによる被害など」で確認。</p>
<p>★金属の腐食等は素人にはわかりません。特に、塗り替えていると一見、問題ナシに見えます。</p>
<p>★「保育の安全」→「安全」8-1、8-3。★保護者に送る第一報メールは、「地震ですが、園は無事です。ここにとどまります」「津波／氾濫の恐れがありますので、従来の自治体の指示通り、〇〇避難所に避難します／〇〇に向かいます」＋「このメールに返信していただいても、返事はできない可能性があります」。</p>
<p>★最寄りの警察署に依頼してシミュレーション訓練も。</p>
<p>★「お迎えリスト」の更新を定期的呼びかける。「不審者」は知らない人ではなく、離婚調停中、あるいはそれ以前の親や親戚である可能性も。</p>
<p>★子どもの成長発達に対して不適切だったもの。★「保育の安全」→「コミュニケーション」A-1。最後にある『保育ナビ』の記事。</p>
<p>★例：指はさみ防止対策が不十分だった／なくなっていた。鍵がなかった／かかっていなかった。遊具／玩具／環境に破損があった。</p>
<p>★「保育の安全」→「安全」2-2の「4つの危なさ（ハザード）」。</p>
<p>★「保育の安全」→「安全」2-6「ヒヤリハットを集める、活かす」。</p>
<p>★内部に小さな磁石が入っている玩具の場合は特に、「急に割れる→中身が出る→磁石がなくなる」が起こる（そもそも使用を推奨しない）。最悪の場合、子ども全員がX線写真撮影になることも。★「保育の安全」→「安全」4-4。</p>